

平成29年度茨城偕行会総会

事務局長 佐々木克徳（陸自71）

茨城偕行会は、6月23日（金）平成29年度総会を「茨城県護国神社」にて開催した。久々の水戸地区における開催となった本年度の総会への参加者は、来賓4名、会員29名の合計33名であった。

総会の開始に先立ち、護国神社本殿前において記念撮影を行った後、昇殿参拝し、日本の弥栄を祈念した。参拝後には、

佐藤昭典司より、心のこもったご挨拶をいただき、参加者一同清々しい気持ちで総会会場（参集殿）に移動した。

1045金澤孝一副会長（陸自58）の司会で、総会が始まった。国歌斉唱、戦没英霊・殉職自衛官・物故者に対し黙祷を捧げた後、原善昭会長（陸自57）の挨拶に引き続いて、来賓の（公社）隊友会茨城県隊友会常務理事役 小澤武様、偕行社副理事長 大越兼行様からご祝辞をいただいた。

議事に当たっては、議長を原会長、説明を佐々木事務局長（陸自71）が務め、28年度事業報告・収支決算（1、2号）、29年度事業計画・収支予算（案）（3、4号）、役員改選（案）（5号）、特攻勇士之像建設事業（案）（6号）の全ての議案について原案通り可決された。

第2部の記念講演は、11・45より本会の会員でもある茨城大学名誉教授 寺門龍一様（名幼48）による演題「日本語民族の自己組織性」を拝聴した。講師の造語であるとの前置きのあった日本語を話す民族においてある条件下で現れる自己組織化の特性について、終戦後の米国の占領政策の成功事例を端緒に古代邪馬台国から大東亜戦争に至る間に現れた各種の事例をもとに解説された。歴史に現れた素晴らしい自己組織化を生む日本語教育の重要性を強調されるとともに、皇室や憲法改正等と課題の多い中、日本語民

族にとって、次の大きな自己組織化が生じるような切っ掛けや動機が、日本を立派にするようなものであることを期待したいと結ばれた。混迷が予測される日本の将来に、密やかな光明を感じさせられる講演内容に、感嘆の拍手が鳴り止まなかった。

1245からの懇親会は、湯原弘副会長（陸自68）の司会で開始された。記念講演より参加された来賓の陸上自衛隊施設学校施設教導隊長 松井一博1等陸佐、茨城地方協力本部 櫻井一郎副本部長よりご祝辞をいただいた後、大澤嘉昭名誉会長（陸上60期）の発声で乾杯、和やかな懇親会食に移行した。

懇親会では、司会の指示に従って新入会会員や総会への初参加者、新役員への就任者や従前会員の皆様から自己紹介や近況報告、会活動への期待等が語られた。

その中において大高哲男副会長（陸自66期）から昭和15年末、多発する航空機事故の絶無を願って陸軍水戸航空通信学校の古井戸に入水された「藤田多美子女士」に纏わる話と辞世の句「大君の御権となれる 益荒男をの 空の勇士にこの身捧げん」が郷土史として紹介された。

会員相互に情報・意見の交換を行い親睦を深めあう中、瞬く間に予定の時間となり、後藤卓三副会長（陸上61）の万歳三唱をもって1400、全ての行事が無事締めくくられた。

前出以外の出席者（敬称略）

根本忠（仙幼47）、矢作榮一（大幼49）、柳田金之助（陸自52）、福井正躬（陸自60）、水越美知（陸自61）、奈良崎信一（陸自62）、小林真臣（陸自66）、山根峯治（陸自70）、大田保重（陸自71）中久喜勉（陸自72）、和知勲（陸自72）、坂本憲昭（陸自75）、鈴木義長（陸自76）、樋口達哉（陸自86）、坪沼浩（陸自01）、木村正己（陸自14）、荻沼蔵次（准陸尉）、大川豊（陸事務官）、齋藤勝彦（陸事務官）、雨谷勝弘（賛助）、藏重昂之（賛助）、前出以外の新人会元幹部自衛官等
飯野毅、黒木侅、森房止和

